

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*手回し機械式計算機「太陽」を収蔵

東京天文台 75 周年記念誌には、「主として暦書編成のために行っていた計算部門を近時の位置天文学の発展に伴い天体位置推算に関する研究を一段と進展せしめるために暦書編成の業務と別に天体位置推算に関する部署として「天文計算部門」を設けた」とある。また、東京天文台 90 周年記念誌には「1948 年（昭和 23 年）東京天文台の機構改革の伴い、東京天文台発足以来続けられて来た暦書編纂ならびのそれに関連した研究を担当していた部門と、新しく天体位置推算に関する研究の部門と合わせて「天文計算部」が設けられた」とある。また 90 周年記念誌には「1966 年（昭和 41 年）人工天体運動部が部門として認められた」とあり、この時初めて、東京天文台に電子計算機 OKITAC5090D が導入されたのである。

これらの天文計算に一時期大活躍をしたのが手回し機械式計算機である。通常東京天文台の人間はそれらを「タイガー計算機」（写真 1）と呼んでいた。その名盤が写真 2 である。



写真 1 タイガー計算機



写真 2 タイガー計算機の名盤

タイガー計算機は、日本では大正時代に大本寅治郎によってこの型の計算機が開発され、その商標「タイガー計算器」はこの種の計算機の代名詞にもなっていたが、東京天文台には他のメーカーのものもあった。しかし機械式手回し計算機と言え、ば、「タイガー」と呼んでいた。ところが今回収蔵した手回し計算機は「タイガー計算機」にそっくりではある

が少し小ぶりである。写真3の左が「太陽計算機」、右が「タイガー計算機」である。

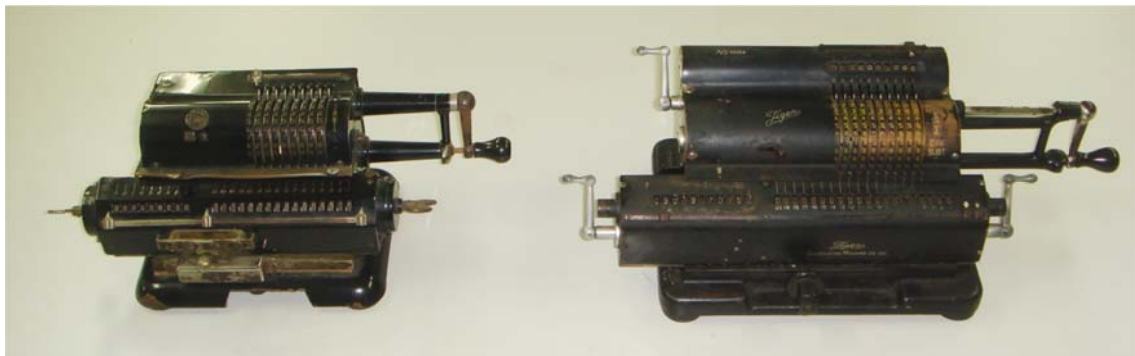


写真3 左が「太陽計算機」、右が「タイガー計算機」

今回収蔵の「太陽計算機」は元国立天文台の田中済氏から譲渡されたものである。写真4がその全体の姿である。計算機の大きさと操作するハンドルとかレバーに形の差があるものの機能は全く同等である。



写真4 今回収蔵の「太陽計算機」

名盤には「太陽」と書かれ、太陽の文字が右から左に書かれ時代を思わせる(写真5)



写真5 「太陽計算機の名盤」

タイガー計算機と言えば思い出される話がある。古在由秀元台長は、子の計算機を回すスピードではだれにも負けなかったと自慢しておられた。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp